ボートレース広報誌
【プロペル】 Vol. 7 2010

PROpel

もっとボートレースを

特集 ボートレース場で輝く女性たち

“ライバルは自分自身”強い心で水上の闘いに挑む

鎌倉涼選手（ボートレーサー　登録番号第4456号・大阪）

気概を持って生き生きと働くボートレースを支える女性たち

“笑顔”や“声”でボートレース場の魅力をアップ

CONTENTS

02 特集
ボートレース場で輝く女性たち

04 “ライバルは自分自身”
強い心で水上の闘いに挑む
鎌倉涼選手（ボートレーサー　登録番号第4456号・大阪）

06 気概を持って生き生きと働く
ボートレースを支える女性たち

09 “笑顔”や“声”で
ボートレース場の魅力をアップ

10 HOPE!
無限の可能性を秘めた
スター候補
西山貴浩選手 × 植木通彦氏
（登録番号第4371号・福岡）

14 ボートレースを支える
プロフェッショナル
［番外編］CM、広告制作の現場に潜入！

【プロペル】
PROpel

ボートレース広報誌「PROpel」は、
みんなに楽しんでいただけるボートレースの
実現に向けた関係者の姿と、社会の様々な分野での
貢献の様子を紹介していきます。

特集

ボートレース場で輝く女性たち

ボートレースは現在、約1,500人のレーサーが知力・体力・精神力のすべてをかけて日々、熱き闘いを繰り広げています。そのレーサーの約1割、160名は女子レーサーです。

表舞台で活躍する女子レーサーはもちろんですが、ボートレース場には様々な分野、職場で自分の仕事に誇りを持ち、ボートレースの発展に向け、日々取り組んでいる女性たちがいます。

今回の特集では、ボートレースに活力を与えるべく、気概を持って生き生きと働く「ボートレース場で輝く女性たち」にスポットを当ててご紹介します。

新しいことへの挑戦は
自分を成長させる糧になります。
できる限り多くのものを
吸収していきたいです。

増田弘子さん
戸田競艇組合
経営企画部開催課
営業担当副主幹

比良野智恵子さん
日本モーターボート競走会
多摩川支部
審判部審判課副主幹

意識を持って仕事をすれば、
自己の成長につながる。それが
この仕事の魅力の一つです。

明文化できないノウハウが必要な仕事です。
数多くのレースを見て、
引き出しを増やしていきたいですね。

株本京子さん
日本モーターボート競走会
多摩川支部
審判部番組課係長

お客さまに「ありがとう」と
おっしゃっていただくと、
もっと勉強していいサービスを
しようと思います。

楠久美香さん
競艇総合管理株式会社
整備グループ

ボートレーサーと同じように、
高いプロ意識を持って働きたい。

最後まであきらめないレースをして、
お客さまに面白いと思ってもらえる
ような走りを続けたい。

鎌倉涼選手
ボートレーサー
登録番号第4456号
（大阪）

江頭飛鳥さん（右）
木戸葵さん（左）
アクアコンシェルジュ
ボートレース尼崎

あくまで主役はレースですが、
お客さまに状況を
的確にお伝えします。

大場ナツキさん
実況アナウンサー
ボートレース大村／
ボートレース下関

“ライバルは自分自身”
強い心で水上の闘いに挑む

2007年のデビュー以来、新進気鋭の女子レーサーとして将来を嘱望されている鎌倉涼選手。レースでは勝負強さを見せる一方で、自らまだまだ課題が多いという鎌倉選手は、周囲の存在に支えられている面も多いといいます。そんな平成生まれの若手レーサーに、ボートレースの魅力や、仕事への向き合い方などを語っていただきました。

スピードに魅せられて
ボートレーサーの道へ

「男子レーサーと比べると、女子レーサーは体重が軽い点が有利だと思います。体重差によるスピードの伸びは大きなアドバンテージになります」。女子レーサーの強みについてそう話す鎌倉選手は、2007年に18歳でプロレーサーとして歩み始めました。レーサーになろうと思ったきっかけは、そのスピードに魅了されたからといいます。

「父親がボートレースファンで、レーサーになってほしいとは昔から言われていました。中学3年で初めてボートレースを見て“かっこいいなー”と衝撃を受けました。その後、ペアボートに乗る機会もあって、迫力とスピード感に引きつけられましたね。絶対にプロのレーサーになって、ボートを自分で操縦したいと強く思うようになりました」と振り返る鎌倉選手。ジェットコースターなども大好きな鎌倉選手は、高速で水面を疾走するボートに恐怖心は感じなかったそうです。

精神的に強くなって
安定したレースをしたい

プロレーサーになって4年目を迎え、A1級レーサーとしてますます活躍が期待される鎌倉選手ですが、「楽しいことよりも辛いと思うことのほうが多い」と話すほど、日々課題と向き合っているそうです。現在、鎌倉選手が克服したいと感じているのが精神面の弱さ。「落ち込みやすい性格で、その影響でレースの成績が安定しないのが課題。もっとメンタル面で強くなりたいです」。

落ち着いてレースに臨むために、鎌倉選手が大切にしているのが気分転換です。特に、周りの人々と積極的にコミュニケーションをとることで不安を取り除くようにしています。「レース場では先輩方や同年代のレーサーと雑談をしたり、またアドバイスをもらったりすることが多いです。プライベートでも、友人や家族と楽しく過ごす時間を持つようにして気持ちを切り替えるようにしています」と鎌倉選手。日常生活でもあえて過度な自己管理は行わずに、むしろ自由に過ごすことでストレスをためないように心がけているといいます。

そんな鎌倉選手にとって、一番の相談相手となっているのが師匠の五反田忍選手です。同じ女子レーサーとして最も尊敬しているという五反田選手について鎌倉選手は、「レースがかっこいいのはもちろん、水面でも、陸に上がっても、どんな時でも精神的な弱さを表に出さないところが本当にすごいと感じています」と、彼女の精神的な強さを目標にしているそうです。

大きな目標を掲げず
目の前のレースに集中

デビュー以来着実にステップアップし、初優勝が待ち望まれている鎌倉選手。今後の目標やライバルをたずねると、「大きな目標は、あえて掲げないようにしています。まずは一走一走に集中して取り組んで、その積み重ねが結果としてついてくればいいと思います。最後まであきらめないレースをして、お客さまに面白いと思ってもらえるような走りを続けたい。ライバルは自分自身。自分に負けないようモチベーションを高く持っていきたい」と、志を語ってくれました。

中学生時代に目の前で繰り広げられるレースを見てボートレースに魅了された鎌倉選手は、その経験からボートレースを知らない方々に、一度はレース場に足を運んでほしいと感じています。「最近はレース場もきれいになっていますし、スタンドでレースを観れば様々な魅力を知っていただけるはずです。大勢の女子レーサーが活躍しているということも含めて、もっとボートレースという競技がメジャーになってほしいですね」とボートレースへの熱い思いを話してくれました。

鎌倉涼選手
ボートレーサー
登録番号第4456号
（大阪）

ボートレースは男女が一緒に戦う数少ないスポーツ。努力した分、返ってくるところも魅力です。

PROFILE／1989年4月30日生まれ。大阪府出身。大阪支部所属。身長159cm、体重47Kg、血液型A型。登録期100期。登録番号第4456号、A1級。2007年5月、ボートレース住之江でデビュー。同年10月、初1着。2009年4月、初優出。2010年には女子王座決定戦に初出場し、同時に優勝戦への初進出を果たす。近畿地区スター候補に選出されており、今後の活躍がますます注目されている

レース当日の鎌倉選手に密着！

レース出場の朝、試運転を行い、モーターやプロペラの調子を確かめる

モーターを調整するのもボートレーサーの仕事。助言を得ることはできるが、作業はすべて自身で行う

時速80Kmのスピードで水面を駆け抜ける。このレースでは見事1着でゴール

レース後、本誌の取材に笑顔で応じる

レーサー仲間とはアドバイスをしたり、されたり。リラックスした会話の時は、21歳の女性の素顔がのぞく

ボートレースの歴史に名を刻んだ・女子レーサーたち

女子ボートレーサーの第1号は、1952年に登録された則次千恵子選手。1953年には第1回全日本選手権競走に則次選手、渕崎栄子選手、中村弘子選手が出場し、1954年には、オール女子選手による競走がボートレース芦屋で開催されるなど、ボートレースでは草創期から多くの女子選手が活躍してきました。一時期、女子選手数は減少しますが、1980年代に入り女子選手の育成が強化されると、有力な選手が次々に誕生。現在の選手数は166名（2010年10月31日現在）、A1級選手も21名（2010年12月現在）いるなど、公営競技の中でもひときわ女性の活躍が目立っています。

第10期生（1952年10月5日～12月4日）の訓練生と教官。右下に女子訓練生の姿もある。当時の訓練期間は2カ月であった
（写真：モーターボート競走30年史〈育成訓練篇〉より）

Memorial Record

★現役最年長選手
大塚治美選手　1959年7月27日生まれ・51歳

★現役最年少選手
渡邉優美選手　1992年9月19日生まれ・18歳

★生涯獲得賞金最高額選手
日高逸子選手　7億3539万4184円（2010年12月7日現在）

★最年長現役歴代1位
古川美千代選手　1935年11月10日生まれ
1992年7月、56歳で引退

★特別競走初制覇
戸板君子選手　1955年・下関1周年記念

第24回 女子王座決定戦競走

2011年3月1日～6日　ボートレース三国

女子王座決定戦競走は毎年ひな祭りの前後に開催される女子ボートレーサーの頂上決戦。2011年は3月1日～6日、ボートレース三国で開催されます。強く、美しく、熱い女性たちの戦いにご注目ください！

■■■ 女子王座決定戦競走 Q&A

女子王座決定戦競走が始まったのは？

1987年、ボートレース浜名湖で初めて開催されました。当時はグレード制がありませんでしたが、1988年にグレード制が導入されると、1989年の第2回から1999年の第12回までGII競走として実施。2000年の13回大会からGIに昇格しました。

出場資格は？

（1）前年度優勝者（2）女子リーグ戦優勝者（3）過去1年間（前年の1月1日～12月31日）の勝率上位者から選出されます。

最年長優勝者と最年少優勝者は？

最年長優勝者は第18回大会（2005年）での日高逸子選手の43歳4カ月。最年少優勝者は第11回大会（1998年）での西村めぐみ選手の24歳3カ月。

最も出場回数が多い選手は？

最多出場は渡辺千草選手の22回。最多連続出場選手は角ひとみ選手の21年連続21回出場（第3回大会・1990年～第23回大会・2010年）

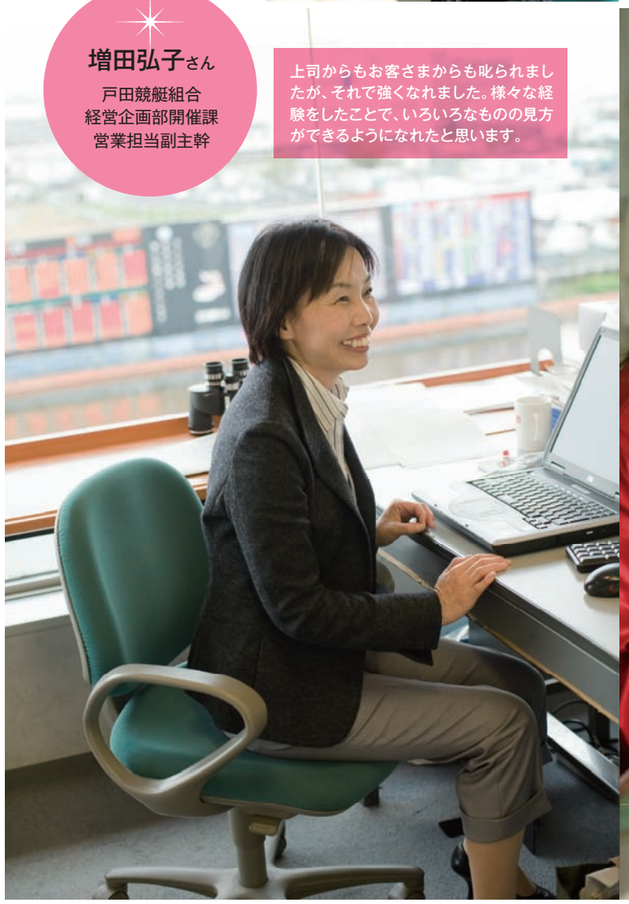
連覇した選手は？

鵜飼菜穂子選手が3連覇（第3回大会・1990年～第5回大会・1992年）、谷川里江選手が2連覇（第7回大会・1994年、第8回大会・1995年）しています。
また、第2回大会（1989年）では日高逸子選手が7連勝で完全優勝、第5回大会（1992年）では鵜飼菜穂子選手が8連勝で完全優勝を遂げています。

気概を持って生き生きと働く ボートレースを支える女性たち

男女のレーサーが同じ水上でしのぎを削るボートレースの世界。華やかな表舞台の裏側にも、ボートレースを支える多くの女性たちが気概を持って生き生きと働いています。

番組編成に用いる“編成パイ”。選手の情報が端的に書き込まれている。株本さんは色ボタンなどを使い、より分かりやすくなるように工夫している

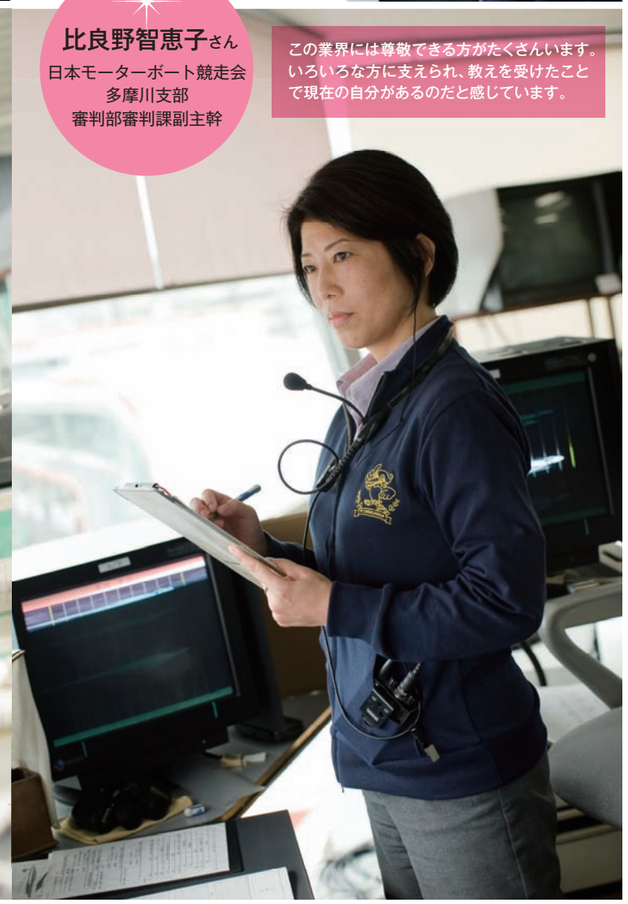


増田弘子さん
戸田競艇組合
経営企画部開催課
営業担当副主幹

上司からもお客さまからも叱られましたが、それで強くなれました。様々な経験をしたことで、いろいろなものの見方ができるようになれたと思います。

株本京子さん
日本モーターボート競走会
多摩川支部
審判部番組課係長

まさかこんなに長く働けるとは思っていませんでした。職場の仲間に恵まれ、環境が良かったから続けてこられたのでしょう。



比良野智恵子さん
日本モーターボート競走会
多摩川支部
審判部審判課副主幹

この業界には尊敬できる方がたくさんいます。いろいろな方に支えられ、教えを受けたことで現在の自分があるのだと感じています。

職場の理解を支えとし 仕事と家庭を両立

「デスクワークだけでなく、イベントなどで現場に出ればお客さまと触れ合えることが楽しいです」と話すのは、ボートレース戸田の施行者・戸田競艇組合経営企画部開催課の増田弘子さん。増田さんは、就職後に配属された人事課を皮切りに、総務課、整備課などの部署で様々な経験を積み重ねてきました。「ほぼ2年ごとに異動があり、そのたびに勉強が必要ですが、物事を多角的に見られるようになったことや各部門が組織全体として連携している様が実感できるメリットがありますね」と増田さん。

私生活でも結婚と出産を経験している増田さんは、仕事と家庭を両立させながらの生活を長年続けています。「職場では、産休の間もお互いに仕事をカバーしあうなど理解がありますし、また家庭でも夫に家事を分担してもらったりしています」と、増田さんは周囲のサポートに感謝の気持ちを忘れません。

そんな増田さんが現在、強い思いを抱いて携わっている業務が今年4月から担当している番組編成（レースの編成）です。増田さんはボートレース戸田では初の女性番組編成員となります。「それだけにやりがいも大きいですね。新しいことへの挑戦は自分を成長させる糧になります。できる限り多くのものを吸収していきたいです」と、意欲をのぞかせます。

きっかけは好奇心 業界初の女性番組編成員

番組編成員として活躍する女性、そのさきがけといえる存在は、ボートレース多摩川で2007年から編成員を務めている株本京子さんです。一般職でボートレースの世界に入った株本さんは様々な部署を経て、2001年に番組編成課に異動。6年間、補佐（事務）を務めた後、番組編成の担当に。番組編成は各レーサーの実力・特性やレース結果などを吟味して、様々なレーサーの組み合わせによりレースを編成する仕事です。番組編成の仕事を間近で見るうちに、「どのような規程に基づき、どういう手順で番組編成しているのかなど、番組編成についてもっと知りたいという好奇心がわいてきたのです」と株本さん。それからは、ルールや編成方法に関する知識を、仕事の合間などに少しずつ身につけていったそうです。

「勉強中も、自分が番組編成員になることは想像していませんでした」と話す株本さんですが、自分で編成した番組を上司に見てもらっているうちに「編成員をやってみたらどうか」と助言され、挑戦する気持ちになったそうです。「番組編成は人気のポジション。しかもベテランの男性職員が長く務めるケースが多いので、事務経験の長い私には無縁の世界だと思っていました」。

「4年目の現在も毎日が勉強で、この仕事が面白いと感じるまでには、もう少し時間がかかりそうです。大変な仕事ですが、最終日の最終レース終了後には、一節間無事に終わったという安堵感と達成感が込み上げてきます」「この仕事には明文化できないノウハウがあります。数多くのレースを見て、引き出しを増やしていきたいですね」と仕事の魅力を笑顔で話します。

高い意識を持って レースを公正・安全・円滑に

モーターボート競走の公正かつ円滑な運営を担う（財）日本モーターボート競走会には、多くの職員が働いていますが、同会には一般職とは別に審判や検査など、実際のレース運営にかかわる職種があります。現在では、性別にかかわらずやまと学校で1年間の厳しい研修生活を経て、審判員及び

検査員資格検定試験に合格しなければ、これらの業務に携わることはできません。ボートレース多摩川で副審判委員長を務めている比良野智恵子さんは、1991年にボートレースの世界に入った女性初の審判員です。

「女性で初めてだったということよりも、入った当初は右も左も分からなかったので、とにかく先輩方に迷惑をかけないように必死に学びました」と話す比良野さん。レース状況の把握はもちろん、妨害失格の適用など、公正・安全・円滑なレース運営のために審判員は様々な判断を瞬時に下さなければなりません。そのため、「常に高い意識を持って仕事に取り組む姿勢が大切」といいます。比良野さんは、「意識を持って仕事をすれば、自己の成長につながるのがこの仕事の魅力の一つです」と話します。多忙な毎日ですが、愛犬と過ごす時間や「13レース」と称する親睦会が貴重なリフレッシュタイムになっているそうです。

近年は、比良野さんの周辺でも女性審判員の姿が見られるようになりました。そんな後輩たちに対して比良野さんは、「他者に流されることなく、“自分”を持ってほしいですね。それには、しっかりと経験を積んで判断力も含め実務力を磨くようにしてほしい」と力強いエールを送ります。

女性初の整備士を目指し夢に向かって踏み出す

「この会社に入社したのは2010年の1月で、まだ毎日が勉強ですが大きなやりがいを感じています」。そう話すのはボートレース戸田で整備業務に携わる楠久美香さん。実は楠久さんは、もともとはボートレーサー志望。一度はやまと学校に入学しましたが、ボートの操縦が思うようにいかず、やむなく夢を断念しました。「残念でしたが、やまと学校の経験は無駄ではありませんでした。モーター整備の面白さを知り、新たに整備士という夢を見つけられたのです」と、別の道からボートレースの世界を目指すことを決意。すぐにボートレース戸田で整備業務を請け負う競艇総合管理(株)の門を叩きました。

楠久さんは現在、2011年7月に実施される「二級整備士」の受験を目標として日々の業務に励んでいます。先輩に教わった内容を忘れないためにポケットには常にメモ帳を携帯し、空き時間には学んだことを漏れなく書き留めます。力仕事などでは大変に感じることもあるそうですが、「手の小ささを活かした細かな作業など、女性ならではのメリットもあります」と現状を前向きに見つめます。

「やまと学校で同期だったレーサーのモーターを整備できたことが嬉しかった」という楠久さん。将来については「理にかなった整備ができる一人前の整備士になりたいです。ボートレーサーと同じように、高いプロ意識を持って働きたい」と、自らモチベーションを高めていました。

機械ばかりを相手にしているように見えるかもしれませんが、何よりも人とのコミュニケーションを大切にしたいと思っています。

楠久美香さん
競艇総合管理株式会社
整備グループ

メモ帳を常に携帯し、後でノートにまとめる。色分けをしたり、図を添えたり丁寧に書き込まれている

“笑顔”や“声”でボートレース場の魅力をアップ

ボートレース場を訪れる楽しみは間近で見られるエキサイティングなレースだけではありません。笑顔や声でのインフォメーションがボートレース場に彩りを添えます。

私たちがいるからボートレース場に行こうと思っていただけるようなサービスを

アクアコンシェルジュは、ボートレースを快適に楽しんでいただけるよう施設のご案内をはじめ、レースのルールやマークカードの記入方法などをお客さまに説明する仕事です。

就職前は2人ともボートレースをほとんど知らなかったのですが、今では毎日とても楽しく仕事をしています。ボートレースの知識は研修のほか、自分たちで新聞や雑誌、インターネットで調べたり、選手のブログを見たりして得ています。また、お客さまから教えていただくことも多いですね。お客さまに育てていただいているのだと感じています。

お客さまに接する上で一番心がけているのは、“笑顔”でいること。でも、楽しいから自然と笑顔になるのです。レース場へいらっしゃるお客さまはとても温かく、いつも声をかけてくださいます。お客さまに「ありがとう」とおっしゃっていただくと、もっと勉強していいサービスをしようと思います。

ボートレースはまさに“水上の格闘技”。この魅力をもっと幅広い方々に知っていただきたい。ボートレース場は、若い女性の方には少し敷居が高く感じられるかもしれませんが、私たちがいれば安心できるのではないでしょうか。お客さまに「アクアコンシェルジュがいるから、行ってみよう」と思っていただけるような存在になりたいですね。

開門時のお客さまのお出迎えや出走表の配布、ポイント交換の手続きなどもアクアコンシェルジュの役目

尼崎のアクアコンシェルジュの皆さん。前列左が江頭さん、右が木戸さん

江頭飛鳥さん
木戸葵さん
アクアコンシェルジュ
ボートレース尼崎

大場ナツキさん
実況アナウンサー
ボートレース大村／ボートレース下関

あくまで主役はレースですが、状況を声で的確にお伝えします

大村生まれの大村育ちなのですが、ボートレースのことはまったく知りませんでした。実況アナウンサーとして研修を始めて2週間が経ったころ、分からないことがあまりに多く「辞めさせてください」と泣きながら訴えたほどです(笑)。でも、続けていくうちにボートレースは単なるギャンブルではなく、スポーツとしても、目でも耳でも楽しめる、いろんな要素があるのだと思うようになりました。それに気づいた時、この魅力をどのように伝えていくかということに、やりがいを感じる一方で新たなプレッシャーを感じ、悩むようになりました。

実況で難しいのは、目まぐるしいレース展開をいかにかいつまんで伝えるかということです。展開が早い時は、目から入った状況が瞬時に口から言葉として出ていくような感覚です。少ない言葉数で、的確に表現できた時は「うまくいった！」という満足感がありますね。

他のレース場では単純にレースの状況を実況するだけではなく、レースをドラマチックに演出するような実況をされる方もいらっしゃいます。そういった実況には憧れもありますが、私には難しい。それより自分のモットーである“背伸びをしない”実況を大切にしたいと思っています。実況は目立つことなく状況を伝えるもので、あくまで主役はレースです。しかし、お客さまに状況を的確に伝えるという責任を担っています。無理をせず、自分にできること—情報を分かりやすく伝えていくこと—を心がけていきたいですね。

PROFILE／長崎県大村市出身。高校時代に放送部に所属し、短大では演劇放送コースに進学。卒業後、ボートレースの実況アナウンサーを始める。若松、芦屋、福岡の各ボートレース場で実況を担当後、6年前から故郷の大村の実況を担当。下関も掛け持ちし、忙しい日々を送る。やわらかな声質、的確で分かりやすい実況がファンに大人気。

解説の元A級レーサー樋口保宏さんとともにレースを追う。「樋口さんに教えていただいたことで、レースがより深く見えるようになりました」(大場さん)

大場さんの仕事道具。出走表は艇ごとにきれいに色分けしている

元スター選手の植木通彦氏をコメンテーターに迎え、スター候補選手の可能性と人間的魅力を紹介します

第６回
HOPE!
無限の可能性を秘めた
スター候補★

今回の対談場所はボートレーサーの養成訓練を行うやまと学校。西山選手いわく「毎日が辛く、楽しい思い出がある場所」とのこと。

緻密な努力とイメージで勝ちを引き寄せる

インタビューでの軽妙な受け答えなど、陽気な性格が人気の西山選手ですが、その陰ではストイックな努力家の一面も持ち合わせています。今回は、現役時代に１度だけ同じ節を走ったことがあるという同郷の先輩・植木通彦氏との対談から、西山選手のプロとしての心得や、ファンの皆さまへの熱い思いを語っていただきました。

スター候補選手 登録番号第4371号（福岡）

西山貴浩選手 × 植木通彦氏

Takahiro Nishiyama × Michihiko Ueki

レーサーを志すきっかけは現役時代の植木選手

植木　明るくひょうきんな性格でボートレース界のムードメーカーとしても活躍している西山選手。その人柄は昔から変わらないのでしょうか。

西山　はい、やんちゃでうるさい子どもでした。マラソンが得意だったのですが、走りながら周りの風景に突っ込みを入れたりして、ひとりでしゃべり続けていました。少し変わった性格だったと思います。

植木　ボートレーサーを目指すようになったのは、何かきっかけがあったのですか。

西山　実は植木さんのレースを観戦したことです。中学生の時に、父に連れられてボートレース若松で開催されたオーシャンカップを見に行きました。そこで植木さんが優勝して、観客席が揺れるほど「植木コール」が鳴り響いたのです。これはすごいと思い、やまと学校の受験を決意しました。

植木　なかなか世代を感じさせるエピソードですね。訓練生活は順調でしたか。

西山　やまとチャンプは俺がもらった！と自信満々で入学したのは良かったのですが、現実の訓練は予想以上に厳しかったです。来る場所を間違えたなと（笑）。成績は芳しくなく教官にも叱られ続けましたが、今振り返れば良い経験だったと思います。

植木　プロになってから失敗を繰り返すと周りに迷惑がかかります。だから、訓練中はどんどん失敗して叱られるくらいのほうが良いと思います。西山選手のように、叱られても奮起してくれれば良いのですが、中には何を叱られているのか分からない訓練生も多く、指導の難しさをよく感じますね。

西山　苦労した分、やはり卒業の瞬間は感激しました。感情が高ぶりすぎて涙が出ず、ずっと笑っていたことを憶えています。

無心で操縦してつかみ取った初優勝

植木　西山選手は2005年9月に選手登録され、11月にボートレース若松でデビューを果たしました。やはりデビュー戦は思い出に残っていますか。

西山　鮮明に憶えています。やまと学校時代から、若松でデビューする風景をずっとイメージしながら訓練をしていました。ですから実際に水面に出てスタンドを見上げた時は込み上げるものがあり、感動で待機行動中は泣いていました。

西山選手の生い立ち、プロレーサーになるまで

足が速かったことから少年時代はマラソンに励んでいた。小学生の時に知り合いからポケットバイクをプレゼントされ、エンジンをいじる面白さから整備士を夢見るようになった。しかし、中学生の時に観戦したボートレースで現役時代の植木通彦選手が優勝する様子を目の当たりにし、同じ世界に入ることを決意する。

やまと学校へは4度目の受験で合格。当初は両親に内緒で受験をしていたがうまくいかず、そのことを察した父親からアドバイスを受けたことで合格に至ったという。訓練生時代は成績がなかなか上がらず、「ピンチとチャンスが9対1」という毎日を過ごしたが、持ち前の元気と前向きな性格で克服し、無事に卒業した。卒業後の2005年9月に選手登録され、同年11月にデビューを果たす。

植木　デビュー翌月には初1着を獲り、2008年には念願の初優勝を果たしましたね。ゴールの時に出た、気持ちの入ったガッツポーズが印象的でした。

西山　ガッツポーズはよく憶えていませんが、その瞬間はお世話になった先輩方の顔が浮かびました。1号艇・1コースからのスタートで、進入が深くなり、バックストレッチに向けて3艇が併走しましたが、2マークで上手く外からつけ回って前に出られました。考えながら仕掛けたというよりは、無心でハンドルを切っていた感じです。

植木　一節の最終日、優勝戦の頃には、その節のボートの癖も分かってくるので、頭で考えなくとも自然に体が動くことがありますね。プレッシャーも大きかったと思いますが緊張はありましたか。

西山　性格的なものもあって、まったく落ち着けませんでした。前夜も緊張で眠れず、1号艇が勝つイメージを頭にたたき込もうと明け方までレース映像を観ていました。ところがその日に

西山選手の
プロレーサーとしての活躍

地元の若松で迎えたデビュー戦は、最後まで追い上げるレースを見せて健闘し3着に入る。最終日はエンストによる失格処分となったが、スタンドのお客さまから励ましの声援を送られて感激したという。その翌月には念願の初1着を獲得。2007年の初優出、2008年の初優勝はいずれも若松で果たしており、地元の熱い応援を力に変えている。2010年12月7日現在の通算成績は勝率5.89、優出21回、優勝1回。G1競走には81回出走。

限って1号艇が負けるレースばかりで(笑)。

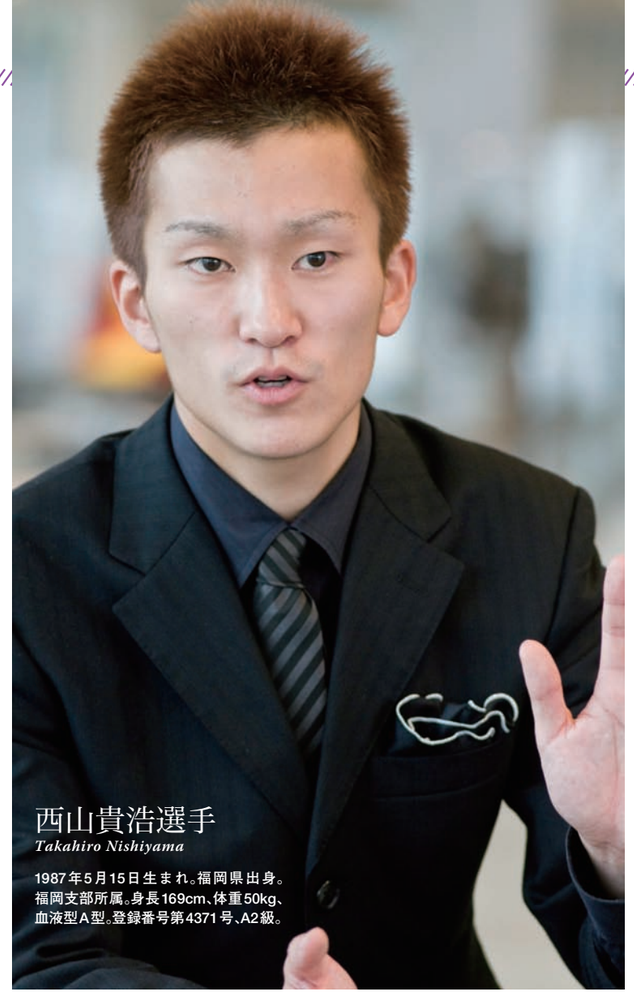
植木　しかしイメージというものは非常に大切で、頭の中でのイメージがずれていると良い結果にはつながらないものです。映像の話はともかく、少なくとも西山選手の中では良いイメージを持ってレースに臨むことができ、それが初優勝に結びついたのだと思いますよ。

西山　イメージだけなら賞金王になっていると思うのですが、難しいですね(笑)。

努力の積み重ねが結果につながる

植木　ところで、プロのレーサーとして西山選手が心がけているのはどのようなことですか。

西山　毎日の生活、特に体重管理は厳格に行っていて、50kgを超えてボートに乗ることは絶対にありません。万一超えた時には20キロでも30キロでも走って落とすようにしています。どんなに良いプロペラやモーターで走っても、体重でハンデを背負って負けてしまったら何の言い訳にもならないですから。



西山貴浩選手
Takahiro Nishiyama

1987年5月15日生まれ。福岡県出身。福岡支部所属。身長169cm、体重50kg、血液型A型。登録番号第4371号、A2級。

植木　マラソンの経験が活きているのですね。ランニングは減量だけでなく集中力のトレーニングにもなりますし、長丁場のレースに耐えられる体力を養うことにもつながります。

西山　ほかには、訓練生時代から毎日ノートをつけるようにしています。節間の目標や結果と反省点、何を達成できて、何を達成できなかったのか、そうしたことすべてを毎日記録していて、今までに書きためたノートは10冊を超えました。今期はスタートの改善について研究をしていて、結果も表れつつあるので手応えを感じます。

植木　成績も上がってきている西山選手ですが、周囲を笑わせている陰ではストイックな努力があったのですね。一つアドバイスをするなら、分析だけに囚われないことが重要です。私の場合は、まずレース全体をイメージして大まかな展開を想定し、あらゆる状況に対応できるように努めました。西山選手の観察力は素晴らしいと思いますので、あとは判断力を磨くと良いかもしれません。

西山　現役時代の植木さんとは1度だけ同じ節に出場したことがあり、当時大きな衝撃を受けました。それまでは当たり前に勝つトップレーサーという認識だったのですが、実際はすごい

重圧の中で努力して戦っている姿を間近で見たのです。他人事のような見方しかしていなかった自分がとても恥ずかしくなりました。

植木　SGに出走するようなトップクラスのレーサーというのは、誰よりも努力をしています。先輩としては後輩につい甘いことを言いがちなのですが、そこで何倍も努力しないととても先輩方には追いつけません。上を目指すためには、あえて自分を厳しい環境に追い込んで苦労することも必要だと思います。

ファンとの交流で来場する付加価値を

植木　さて、地区スター候補である西山選手は、持ち前のキャラクターでお客さまとも積極的な交流を行っているそうですね。

西山　電話投票やインターネット投票などが整備され、自宅にいながらボートレースを楽しめる時代になりました。そうした状況にあって、入場料を払ってわざわざボートレース場に足を運んでいただくお客さまには、何らかの付加価値があるべきだと思います。

植木　私もファンの皆さまには、もっと西山選手のことを知ってほしいと思います。人間的な魅力だけでなく、レースでもあきらめない走りを心がけていますし、お客さまのことを考えて走っていると感じますね。

西山　最近では私の地元、福岡以外のファンの方にも、「見に行きます」と言っていただくことが多く、お客さまとの距離が着実に縮まっていると感じます。そしていずれは、植木さんのように走りでお客さまを呼べるようになりたいです。

植木　西山選手には、将来は全国スターを目指して頑張ってほしいですね。最後に、ボートレースの魅力はどのようなところにあると思いますか。

西山　ベテランも若手も、そして男性も女性も分け隔てなく、力と力だけでぶつかりあうというところが一番の魅力ではないでしょうか。私も女性レーサーだからといって意識することもありませんし、それが当たり前の環境というのは他の業界から見ればすごいこと。この魅力はボートレース場でしか味わえないと思うので、ぜひ多くの方々に来場していただきたいです。

植木通彦氏
Michihiko Ueki

1968年4月26日生まれ。福岡県北九州市出身。O型。登録第3285号。「艇王」「不死鳥」として知られる。通算成績は4,500走1,562勝。勝率7.58。優勝74回。2007年7月に現役を引退。

西山選手との対談を終えて……植木通彦

明るくハキハキと自分の意見を話す西山選手の姿は、私が現役の頃から印象に残っています。陽気に振る舞う一方で努力も怠らず、またセンスも良いので、今後ますます期待が高まることでしょう。ファンの皆さまに対しても、積極的に自身の魅力をアピールしてほしいと思います。細かな分析に執着せずに、大局的にレース全体を捉えながら思い切りの良い走りをお客さまに見せてください。

ボートレースを支えるプロフェッショナルを紹介するこのコーナー。今回は、番外編。広告、CMの企画担当者にフォーカスしました

CM、広告制作の現場に潜入！

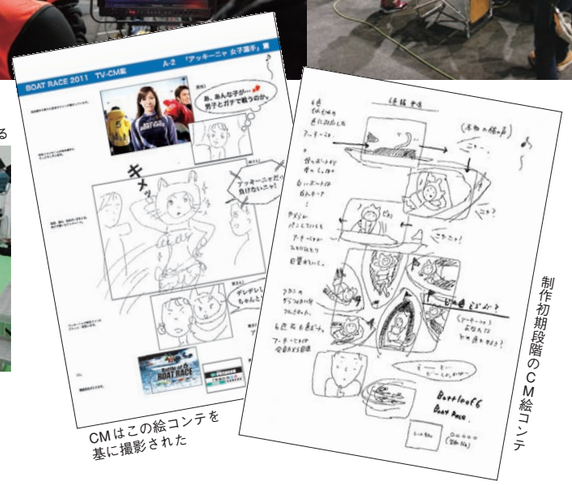
2010年12月末から展開されている、ボートレースCM・広告の新シリーズ。ストーリー性が強かった従来から趣が改まって、一目で印象に残る雰囲気に仕上がっています。企画を担当したBOAT RACE振興会広報部の小野田良幸さんに、制作の意図やこぼれ話など貴重なお話をうかがいました。

BOAT RACE振興会
広報部宣伝課課長
小野田良幸さん

ボートレース桐生で行われたロケ。集まったエキストラは約100人。撮影は21時まで続いた

スタジオでの撮影。芸術作品のように並ぶ6艇のボート

緑のバックで撮影をし、あとでCG処理される



CMはこの絵コンテを基に撮影された

制作初期段階のCM絵コンテ

ボートレースの魅力をシンプルにアピールしたい

アッキーナこと南明奈さんが扮するカラフルな6匹のネコ「アッキーニャ」が、音楽に合わせて明るく動きまわる今回のボートレースのCM。BOAT RACE振興会広報部宣伝課課長の小野田良幸さんによると、新シリーズでは「インパクト」と「ユニークさ」を前面に出したかったそうです。「まず、6艇で走るボートレースという競技そのものが、世間にはあまり認知されていないことが分かりました。そのため、ボートレースという新しい呼称をアピールしつつ、6艇の色に身を包んだ『アッキーニャ』によってボートレースの基本を強調しました」と小野田さん。CMのターゲットとなる20〜30代の男女に、ボートレースの魅力をシンプルに訴求しているそうです。

振り付けを担当したのは、数々のCM作品で活躍している業界の第一人者、香瑠鼓（かおるこ）さんです。小野田さんによると、「香瑠鼓さんには、6匹それぞれに個性豊かな踊りを考えていただき、最後は南さんもすっかり『アッキーニャ』になりきって踊っていました。ちなみに衣装のデザインも各色オリジナルですが、南さん本人はブラックが気に入っています」とのことです。また、BGMはボートレース場で流れている「BEAR SONG（アメリカ民謡）」と「クワイ河マーチ」にオリジナルの歌詞を乗せて使用。以前イベントで南さんが来場した際、音楽に合わせて口ずさんでいたのを見て着想したそうです。

約半年間にわたった制作プロジェクトは順調に終了し、小野田さんも「撮影で6役を演じなければならなかった南さんは大変だったと思いますが、本人も新CMを楽しみにしているようで安心しました」と安堵の表情です。しかし作品の満足度について問われると、「まだ満足する段階とは考えていません。この数十秒の映像から、少しでも多くの方がボートレースを身近に感じてほしいですし、そうした反応が世の中に広がった時、私たちも初めて納得ができるのです」と気を引き締めていました。

どの色、選ぶの？
Battle of 6
BOAT RACE
www.akkinya.jp
アッキーニャ 検索 BOAT RACE

日本財団の紹介

日本財団
The Nippon Foundation

●日本財団に関する情報はこちらから

http://www.nippon-foundation.or.jp/

●日本財団会長　笹川陽平ブログ

民の立場から公への貢献をモットーに内外の現場で公益活動を実践。年の三分の一を海外活動に充て、海外情勢や時事問題など多角的視点から情報を発信しています。

http://blog.canpan.info/sasakawa/

全国のボートレース場紹介

BOAT RACE 三国

ボートレース三国は全国24場で唯一、日本海側に位置しています。スタンドはすべて室内で冷暖房を完備し、1年を通してとても快適です。指定席最前列のグループシートは畳席で、リラックスしながらレースを観戦できるほか、場内では福井名物のソースカツ丼やおろし蕎麦が味わえます。近隣の芦原温泉や三国町の海辺にある民宿では、新鮮な魚介類や豊かな情緒が楽しめます。

ADDRESS●〒913-8533 福井県坂井市三国町池上80-1
ACCESS●JR芦原温泉駅より無料バス、またはタクシーで約10分。北陸自動車道・金津インターより車で約15分。

IS 563662 / ISO 27001：2005

◆「ISO／IEC27001：2005」を認証取得

BOAT RACE振興会は、2010年7月25日付で、全部門を対象とした情報セキュリティマネジメントシステム（ISMS）の国際認証基準「ISO／IEC27001:2005」を認証取得いたしました。

BOAT RACE振興会
Boat Race Promotion Association

〒108-0073 東京都港区三田3-12-12 笹川記念会館　TEL.03-5232-2511　FAX.03-5232-2519

BOAT RACE振興会HP　http://www.kyotei-pr.jp/
BOAT RACEオフィシャルweb　http://www.kyotei.or.jp/